

第31回 五式戦(タミヤ)の巻



今回は三式戦闘機「飛燕」の発動機を応急的に空冷に換装し、愛称を得る間も無く本土防空に奔走した五式戦闘機の数少ないモデルを取り上げます。

今日私が飛行機模型、それも殆ど大戦中の日本機ばかりを作っているのは、親戚の伯父さん宅で沢山の飛行機の完成品を見せてもらったことがきっかけとなっています。もう20年以上昔のことですが、当時にして製作機数は約300機、何と国産の1/72のプラモデルは殆ど作ったという話でした。既に絶版となっていたものも多々有り、伯父さん宅で存在を知った飛行機模型も少なくありません。今回取り上げるタミヤの五式戦もそのうちのひとつです。

伯父さんは約300機は有るコレクションの多くを洋服用の薄い箱などに入れて保管していましたが、幾つかは応接間のガラスケースに飾ってありました。たまたま私が遊びに行った時にこの五式戦が飾ってあり、伯父さんは手に取って「ちょん」とプロペラを回してくれました。そう、触るだけでモーターが回るので!! そのほかにもこのモデルは脚を置むことが出来るなど、子供心にそれまで私の見聞きした飛行機モデルでは感じたことの無い「本物」を感じさせるものでした。私は自分でも作りたくなりどこで売っているのかを尋ねましたが、残念ながらもう絶版で売っていないということでした(余談ながら、「絶版」という言葉はこの時覚えました)。

時は流れ、ある年の静岡見本市(現在のホビーショー)のタミヤのブースで1/50シリーズの一部が限定再販されるという情報を静岡在住の友人Eから得て、ついに念願の五式戦入手できました。箱絵は再販用のセピアカラーの物となっていますが、中身は紛れも無くあの五式戦です。同シリーズで三式戦「飛燕」も発売されていた為一部の部品は共通ランナーで入っています。また、主翼上面の点検パネルから機銃の弾倉が見られるようになっているのも魅力です。



そして!! この五式戦のエンジンとなるのが左のマブチミニベビーモーターです。回転軸がオフセットされた特殊なマグネット配置により、スイッチを設けなくとも弾くと回転・押さえると停止出来ます。付属の金具が単三電池ケースとモーターベースを兼ねており、配線の必要もありません。再販キットにはミニベビーは同梱されていませんが固定用の部品(上の写真で左端の袋の中に見られる黒色の円筒状部品)は付属しているので、ミニベビーさえ有れば今でもプロペラを回すことが可能です。再販時にギミック

キットデータ	
メーカー	タミヤ
スケール	1/50
当時価格	1000円(税抜)

が取り除かれることも少なくない昨今、この仕様は大変嬉しいです。ちなみに左の写真の向かって右側は私が学生の頃購入した物、左側は数年前に渋谷の東急ハンズに売っていた物です。新しいものは若干値上がりしプロペラ部品が半透明になっていますが、基本的な仕様はそのままです。
ミニベビーさえ有れば…済みません、ハンズの店頭在庫全部貰ったのは私です。
おかげであと10年は戦えると思います
(爆)